



歯科保健医療国際協力協議会 第28回総会および学術集会

【総会および学術集会】

2017年7月2日（日）

会場：日本大学歯学部2号館 研修医講堂

（役員会：8時30分～ 日本大学歯学部1号館
大学院校舎4階 歯科衛生士学校 第9講堂）

【学生研修会】

7月1日（土）15時～

会場：日本大学歯学部2号館 研修医講堂

【懇親会】

7月2日（日）17時～

会場：PRONTO IL BAR 御茶ノ水ソラシティ店

大会長 宮田 隆（歯科医学教育国際支援機構）

問い合わせ先：jaicoh2017@gmail.com

ご挨拶

第 28 回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術集会 大会長

特) 歯科医学教育国際支援機構 理事長 宮田 隆

この度、第 28 回目となる歯科保健医療国際協力協議会（以下、JAICOH）の学術集会の大会長を仰せつかった宮田です。この学術集会が成功裏に終わるよう、皆様のご協力をくれぐれも宜しく申し上げます。

JAICOH は我が国の歯科系学会としては最も小さく、しかし、最も志の高い学会として私自身認識しております。実は、私が国際医療貢献の世界に飛び込むきっかけになったのもこの学会のお陰であります。本学会の設立メンバーであった元会長の村居正雄先生が雑誌に国際医療貢献について投稿されたのを拝見し、大変、興味を持ちました。その時、カンボジアでスタディーツアーを実施するというお話を伺い、すぐに参加することに決めました。それが、私がカンボジアと関わることになったきっかけであります。当時、JAICOH の設立メンバーには錚々たる方々がいらっしやいまして、例えば長く JICA にいらした半田祐二郎先生（現在、北海道医療大学）、愛知学院大学の池田憲昭先生（現在、国立国際医療研究センター）などはすでにカンボジアに入って活動されていました。すごい人たちがいるんだなあ、と心底感心したのをよく覚えています。このような先駆者の背中を見ながら、私自身、試行錯誤を繰り返しながら国際医療貢献の道に邁進して来たわけですが、今になってつくづく思うことは、その当時の先駆者たちのノウハウ、考え方、あるいは現地の人たちとのコミュニケーション・ツールを私たちがしっかり引き継いでこなかったと言う慚愧の念です。その結果、歯科系の国際医療貢献活動が論理性に欠け、社会活動として高い評価が得られない原因ともなりました。また、ネットワークが脆弱で一匹狼的な団体が乱立した要因にもなったと考えられます。しかし、今回シンポジストとして登壇頂く深井稜博先生が会長をされた時代から、歯科系 NGO のネットワーク作りに尽力され、情報交換に寄与されたことはご存知の通りです。そのような背景を踏まえ、国際医療貢献の先駆者の先生方の経験を次の世代に伝えるべく、大会のキャッチフレーズを「ベテランから若手へ～国際医療貢献のバトンタッチ～」としました。若い世代が少しでもそれを参考により質の高い国際医療貢献活動ができるよう企画しました。その他、数多くの口演報告もあります。どうか、活発な討論がなされ、より充実した大会になりますよう、皆様のご協力を切にお願い致します。



プログラム

特別企画

シンポジウム (14:30~16:30)

ベテランから若手へ ~国際医療貢献のバトンタッチ~

深井 穂博 先生

ネパール歯科医療協力会

河村 康二 先生

南太平洋医療隊

宮田 隆 先生

特) 歯科医学教育国際支援機構

一般口演

第 I 部 (9:40~10:30)

座長：門井謙典

兵庫医科大学歯科口腔外科学講座

1. 第 17 次インドネシアスタディツアー事業報告

○松浦葵¹⁾ 伊東紘世¹⁾ 鯨井桂子¹⁾ 青木孝仁¹⁾ 眞木吉信^{1,2)}

1) 東京歯科大学国際医療研究会

2) 東京歯科大学衛生学講座

2. 創設 15 周年を見据えて学生団体の国際保健医療について考える

○千生倫¹⁾ 葛生悠貴¹⁾ 柳川亜美¹⁾

1) 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会

3. トンガスタディツアー

○佐々木梨乃¹⁾ 一戸咲¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部国際保健部

4. APDSA シンガポール大会に参加して

○谷口玲華¹⁾ 石澤稿¹⁾ 田中雄真¹⁾ 松本理沙¹⁾ 明由理亜¹⁾ 岩下紘子¹⁾
山川修平¹⁾ 山本隼輔¹⁾ 大町浩之¹⁾ 小鹿山希¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部国際保健部

5. ISAPH マラウイ事務所でのインターンシップ報告

○原田有理子¹⁾

1) 九州大学病院歯科研修医 NPO 法人 ISAPH インターン

第Ⅱ部 (10:40~11:30)

座長：白田千代子

ネパール歯科医療協力会 カムカムメール

6. ベトナム社会主義共和国における医療援助活動に大学院生として参加して

○佐久間千里¹⁾ 新美照幸¹⁾ 井村英人¹⁾ 早川統子¹⁾ 山内楓子¹⁾
伊東雅哲¹⁾ 夏目長門¹⁾

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

7. モンゴル国ウランバートルでの HAPPY TOOTH PROJECT

(虫歯で亡くなる子どもをなくそうプロジェクト) の開催

○近藤(志賀)千尋¹⁾ 相原英信²⁾ 小泉裕史³⁾ 鈴木淳子⁴⁾ 村田千年⁵⁾
村田祐志⁶⁾ 割田幸恵⁷⁾

1) 大泉学園町・近藤歯科

2) 医療法人社団英知会・練馬春日町デンタルクリニック

3) 小泉歯科医院

4) マーレデンタルクリニック

5) マリーナ歯科クリニック

6) U歯科医院

7) 日本歯科大学生命歯学部小児歯科講座

8. エチオピア連邦共和国における口唇口蓋裂医療援助活動の検討

○西原一秀^{1,2,3)} 後藤尊広^{2,3)} 岐部俊郎⁴⁾ 古川博雄⁵⁾ 中村典史⁴⁾
夏目長門⁶⁾ 新崎章^{1,2,3)}

1) 琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座

2) 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科

3) 琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター

4) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野

5) 愛知学院大学心身科学部健康科学科

6) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

9. フィリピンでの歯科材料工場、歯科技工所操業報告

○島隆寛^{1,2)}

- 1) 株式会社シケン
- 2) 株式会社クエスト

10. ラオスにおける歯科技工士養成プログラム開設について

○佐藤貴映^{1,2,3,4,5)} 持田寿光¹⁾ 佐藤緑^{1,2)} 渡辺一騎¹⁾ 谷野弦¹⁾

高山史年¹⁾ 小峰一雄¹⁾ 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) ひかり歯科クリニック
- 3) 滋慶学園歯科衛生士学科（非常勤講師）
- 4) 明海大学歯学部病態診断治療学講座薬理学分野
- 5) ヘルスサイエンス大学ラオス P. D. R 歯学部（客員教授）

第Ⅲ部（11:40～12:30）

座長：有川量崇

日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学講座

11. ネパールでの地域保健活動 ～30年目を前に～

○根木規予子¹⁾ 白田千代子¹⁾ 深井稔博¹⁾ 中村修一¹⁾

- 1) ネパール歯科医療協力会

12. モンゴルにおける障がい者歯科の取り組み

○黒田耕平¹⁾

- 1) 日本モンゴル文化経済交流協会

13. 「NPO 法人歯科ネットワーク ー岡山から世界へー」の取り組み

○龍康殿あづさ¹⁾ 村木利彦¹⁾

- 1) NPO 法人歯科ネットワークー岡山から世界へー

14. JICA 青年海外協力隊保健・医療隊員の活動

○原田祥二¹⁾ 池田美子²⁾ 三重野雅³⁾ 板垣晶博¹⁾ 川染なおみ⁴⁾

多田玲子⁴⁾ 木原由里子⁴⁾ 原田晴子⁴⁾ 吉川春佳⁵⁾ 相坂慎吾⁴⁾

小林里美⁴⁾ 福島紘平⁴⁾ 田中綾⁴⁾ 阿部幸太郎⁴⁾ 山口猛彦⁴⁾

- 1) 原田歯科
- 2) 池田歯科クリニック
- 3) しろくま歯科
- 4) 青年海外協力隊北海道 OB 会
- 5) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター中央検査部

15. ラオスにおける看護師を介した歯科口腔保健サービスの構築と全国展開

○渡辺一騎^{1,2)} 持田寿光¹⁾ 谷野弦¹⁾ 高山史年¹⁾ 小峰一雄¹⁾ 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野

第IV部 (13:30~14:20)

座長：遠藤真美

日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座 南太平洋医療隊

16. カンボジアにおける孤児のう蝕罹患状況とその関連要因

○久保田悠¹⁾ Sutthi Jareonpituak²⁾ Kulaya Narksawat²⁾

Pratana Satitvipawee³⁾ Callum Durward⁴⁾

- 1) 新潟大学医歯学総合病院予防歯科
- 2) Mahidol University, Department of Epidemiology, Thailand
- 3) Mahidol University, Department of Biostatistics, Thailand
- 4) University of Puthisastra, Faculty of Health Sciences, Cambodia

17. 歯科医療従事者にできる新たな国際保健活動への貢献のかたち(パート2)

○高山史年¹⁾ 谷野弦¹⁾ 持田寿英¹⁾ 渡辺一騎¹⁾ 佐藤貴映¹⁾ 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構

18. 経営者の視点で考える歯科国際協力の management

○村田千年^{1,2)} 堀江康夫^{1,3)} 小松崎悟郎^{1,4)} 近藤(志賀)千尋⁵⁾

- 1) NPO 法人 YOU&ME ファミリー
- 2) マリーナ歯科クリニック
- 3) 聖路加国際病院歯科口腔外科
- 4) しらかばデンタルクリニック
- 5) 大泉学園町・近藤歯科

19. ドラえもんとかぐや姫

○田中健一¹⁾

- 1) 北京天衛診療所

20. 若手のキャリアパスと国際歯科保健

○相田潤¹⁾

- 1) 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野

懇親会

懇親会 (17:00~19:00)

会場：PRONTO IL BAR 御茶ノ水ソラシティ店



抄 録

一般口演

1. 第17次インドネシアスタディツアー事業報告

○松浦葵¹⁾ 伊東紘世¹⁾ 鯨井桂子¹⁾ 青木孝仁¹⁾ 眞木吉信^{1,2)}

- 1) 東京歯科大学国際医療研究会
- 2) 東京歯科大学衛生学講座

【事業概要】

期 間：2017年3月22日－3月26日

活動場所：インドネシア（ジャカルタ）

訪問場所：Universitas Indonesia, PUSKESMAS CIPAYUNG DINAS KESEHATAN,
POSYANDO ANGGREK, 2B RW. 02, P.T. Lion Wings

活動内容：今回で17回目となる本事業ではインドネシアを訪問した。この企画では、全ての学年の学生を参加の対象としているため、歯学部学生としては非常に早い段階から国際協力に興味や関心を持つことが可能になる。今回は現地において国立大学及び保健所、保健センターの訪問、P.T. Lion Wingsでの工場見学を行った。また2年前から実施している口腔保健に関する意識調査により、日本・台湾・モンゴル・インドネシアの大学生のデータを比較検討することができた。そこで、学生が主体となって国際協力について考えた本事業の活動報告および実施した調査の結果とその考察について発表する。

17th study tour for community oral health care in Indonesia

○Aoi Matsuura¹⁾ Kosei Ito¹⁾ Keiko Kujirai¹⁾ Takahito Aoki¹⁾

Yoshinobu Maki^{1,2)}

1) Student Association of Tokyo Dental College for International Oral Health

2) Hygiene and Community Dentistry, Tokyo Dental College

【Outline of this project】

Period: 22–26 March, 2017

Visited country: Indonesia (Jakarta)

Visited places: Universitas Indonesia, PUSKESMAS CIPAYUNG DINAS KESEHATAN,
POSYANDO ANGGREK, 2B RW. 02, P.T. Lion Wings

In this 17th study tour, we visited Indonesia for five days. Four students in Tokyo Dental College joined this program, and visited the university, PUSKESMAS, and POSYANDO. Also, we have been carrying out the oral health survey since the 15th study tour, and this time we compared these results of the questionnaire in Taiwanese, Mongolian, Indonesian university students. We would like to present our activity survey results in Indonesia.

2. 創設 15 周年を見据えて学生団体の国際保健医療について考える

○千生倫¹⁾ 葛生悠貴¹⁾ 柳川亜美¹⁾

1) 神奈川歯科大学国際医療ボランティア研究会

2017 年 6 月で設立 12 年を迎えた。本団体は『国際保健・日本の医療に貢献できるような広い視野を持った人材育成』を目的として 12 年間活動してきた。歴代の先輩方から引き継いできた海外での国際保健活動、日本国内での国際保健活動、共に『学生の国際保健医療』としてどういった心構えで行うべきか、また今後どのように自分たちで更なる発展をさせていくべきかを今一度模索した。

海外現地での同じ医療者を目指す学生との国際保健活動を行ったこと、その他の国内活動や過去の活動を振り返ったことで、現在では『学生での国際保健医療』にとって以下 4 点を知ることが重要であるという結論に至った。①保健活動とは人と人との関わりのもとに成り立つということ、②時代や国に沿った保健活動が求められること、③個人の経験のみでなく他の経験や知識を仰ぎ続けること、④継続すること、である。

Our considerations about the international health by students

○Kirin Sen¹⁾ Yuuki Kuzuu¹⁾ Ami Yanagawa¹⁾

1) Student Association of Kanagawa Dental University for International Oral Health

June 2017 will be 12 years of establishment of this organization. During this time our main goal was "To train people to have a wide view and contribute to Japan's medical and international health". We have to seek once again on the progress that will come through the activities of international health in Japan and overseas, that was handed down by our seniors in the past and to see what kind of attitude should be taken as "international health care for students". By doing international health activities with students aiming for the same field at overseas and looking back on domestic activities and past activities, we came to a conclusion of four on what "international health care for students" is. There are 1. Health care activities are based on relationship between people 2. These activities are accorded by generations and countries 3. Continue to seek not only personal experiences but also other experiences and knowledge and 4. To continue these activities.

3. トンガスタディツアー

○佐々木梨乃¹⁾ 一戸咲¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部国際保健部

2016年8月、南太平洋医療隊の活動に参加しトンガ王国を訪問した。幼稚園、小学校で学童を対象とした歯磨き指導を手伝い、高校生を対象とした歯科病院見学のアシスタントを行った。障害がある子供たちが通う施設を訪問して彼らと交流した。そこで健康診断と歯磨きの大切さについてポスター発表を行った。この活動で、齲蝕と生活習慣病について考え、現地に知識と技術を根付かせる大切さを学んだ。本報告では今回の活動内容とともに、免許を持たない学生ができること、学べることは何かを発表する。

The study tour in the Kingdom of Tonga

○Rino Sasaki¹⁾ Saki Ichiohe¹⁾

1) International Health Club, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

We visited the Kingdom of Tonga (Tonga) to join the program of the South Pacific Medical Team (SPMT) in August 2016. In Tonga, we assisted the activities of the tooth brushing instruction for the school children at kindergartens and primary schools and to hold the study meeting for high school students. We also had a relationship with the disabled at their schools and carried out the poster presentation about the importance of the medical examination and the tooth brushing there. We learned the relationship between dental caries and lifestyle disease and the importance of the establishment of the accurate knowledge and the technique in this activities. In this report, we introduce the SPMT program and consider the role of dental student in the international medical contribution.

4. APDSA シンガポール大会に参加して

○谷口玲華¹⁾ 石澤稿¹⁾ 田中雄真¹⁾ 松本理沙¹⁾ 明由理亜¹⁾ 岩下紘子¹⁾
山川修平¹⁾ 山本隼輔¹⁾ 大町浩之¹⁾ 小鹿山希¹⁾

1) 日本大学松戸歯学部国際保健部

2016年8月10～13日、APDSA シンガポール大会に参加し、アジア太平洋13か国の歯科学生との交流を通じて自身の視野を広げる経験をしたことを報告する。

本大会では各国の歯科学生がシンガポールで一同に会した。大会中は、様々な国のメンバーで構成されたグループでの交流や学生による研究発表、各国の教授によるレクチャーなどがあり、他国の歯科学生は歯科に関する知識のみならず、英語によるコミュニケーション能力や他国への興味関心も高く、レベルの高さを実感し刺激を受けた。海外の学生との交流を通じて、学生でも自分の意識次第でやれることはたくさんあり、自分のレベルを上げられるものだと思った。本大会後も、日本参加者のミーティングがあり、他大学との繋がりもできた。他の歯科学生がどのように学び、どのようなモチベーションで勉強しているのかを聞いたり、一緒に旅行に行ったりとかけがえのない繋がりを築けたことは大きな収穫だと考える。

Experience in APDSA Annual Congress Singapore 2016

○Reika Taniguchi¹⁾ Ko Ishizawa¹⁾ Yuma Tanaka¹⁾ Risa Matsumoto¹⁾
Yuria Akira¹⁾ Hiroko Iwashita¹⁾ Shuhei Yamakawa¹⁾ Shunsuke Yamamoto¹⁾
Hiroyuki Omachi¹⁾ Nozomi Ogayama¹⁾

1) International Health Club, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

In 10–13 August 2016, we participated the APDSA Annual Congress Singapore 2016 and got a lot of experience through interaction with the dental students in each country. In the convention, we were divided into the study groups consist of the various country students, had the research presentation, and were received the professor' s lecture. Because the level of other country student was higher than it of us in regards to the dental and other knowledge and English communication ability, etc. , we were inspired by them. We realized that we must raise the level. After the convention, the Japanese meeting was held in Japan and we well interacted with the other university students. Now we study and take a trip with them. We had a precious experience in APDSA. Of course, in this year, we are also going to participate the APDSA Annual Congress Hong Kong 2017.

5. ISAPH マラウイ事務所でのインターンシップ報告

○原田有理子¹⁾

1) 九州大学病院歯科研修医 NPO 法人 ISAPH インターン

2016年8月29日から9月30日まで「トビタテ!留学 JAPAN」という海外留学支援制度を利用して NPO 法人 ISAPH (International Support and Partnership for Health) のマラウイ事務所にてインターンシップを行った。マラウイでは歯科大学が存在せず Dental Therapist が主に歯科医療を行っているという背景がある。活動内容は 1) 歯科医院等の訪問 2) 農村での歯科調査 3) Balaka Secondary School でのオープントークである。歯科調査では 6 つの村で合計 60 人の 5 歳以下の子どもをランダムサンプリングし、その保護者（主に母親）にインタビュー調査を行なった。1 日の歯磨き回数、その時間帯と理由、使う清掃用具の種類、歯科医院もしくは Traditional Dentist への通院歴の有無などについて調査した。また Balaka Secondary School では 15 歳～19 歳までの学生約 100 人を対象にし、合計 2 時間程度のオープントークを行った。レクチャーではなく双方の対話を重視したトークとした。「コーラの蓋を歯で開けると歯が強くなる」や「ファンタは水だから歯に良い」という誤解が生じていることが判明した。

Internship Report at ISAPH in Malawi

○YURIKO HARADA¹⁾

1) Dentist-in-training in Kyushu University Hospital Intern at ISAPH

I worked as an intern at ISAPH, International Support and Partnership for Health, from August 29th to September 30th, 2016 in Malawi with economical supports from Japanese private companies. There is no dental school in Malawi so most of the dental treatments are offered by dental therapist instead. My activities were: 1) Visits to dental institutions, 2) Interview in the villages and 3) Open talk at Balaka Secondary School. Interview was targeted to 60 guardians, mainly mothers, in six different villages based on random sampling of under five-year-old children. It was about oral health behavior such as frequency of brushing teeth per day, timing of brushing and its reason, methods of brushing and past experience of visiting dental institutions or traditional dentists. Also, I conducted an open talk at Balaka Secondary School to about 100 students aged 15 to 19 for two hours. It was an active talk rather than a lecture. It turns out that there were misunderstandings, for instance, “Opening Coca-Cola with teeth strengthen my teeth” and “Fanta is good for my teeth because it is just water” .

6. ベトナム社会主義共和国における医療援助活動に大学院生として参加して

○佐久間千里¹⁾ 新美照幸¹⁾ 井村英人¹⁾ 早川統子¹⁾ 山内楓子¹⁾ 伊東雅哲¹⁾
夏目長門¹⁾

1) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

我々は、1993年から約25年にわたってベトナム社会主義共和国の南部に位置するベンチェ省にて、口唇口蓋裂の治療を主体として、医療援助活動を行っている。

これまでにのべ約1000名の専門医とボランティアによる日本人の医療チームにより口唇口蓋裂の無償手術や種々の医療協力を行ってきた。

このプロジェクトでは、専門医のみならず多数の大学院生や医学部・歯学部・看護学部の大学生が参加している。私自身も、3年前より本プロジェクトに参加し、ベンチェ省における医療水準や、患者および患者家族らの現状を学ぶことができた。本報告では、大学院生や大学生の本プロジェクトでの役割を中心に、自身の体験も含めて報告する。

Participation for medical assistance activity in the Socialist Republic of Vietnam as a post-graduate student.

○Chisato Sakuma¹⁾ Teruyuki Niimi¹⁾ Hideto Imura¹⁾ Toko Hayakawa¹⁾
Fuko Yamauchi¹⁾ Masaaki Ito¹⁾ Nagato Natsume¹⁾

1) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, Faculty of Dentistry, Aichi-Gakuin University

We have worked on medical assistance for the treatment of cleft lip and palate in Ben Tre located in the southern part of the Socialist Republic of Vietnam for about 25 years from 1993.

We performed the gratuitous operation of cleft lip and palate and various kinds of medical cooperation so far by the Japanese medical team by a total of approximately 1,000 specialists and volunteers.

For this project, many post-graduate students, and university students of medical department, school of dentistry, school of nursing participate as well as specialists. I have participated this project from three years ago, and I learned about the present conditions of a medical standard and patients in Ben Tre. In this report, I mainly report the role in this project of a post-graduate student and the university student, including my experience in this project.

II-2

7. モンゴル国ウランバートルでの HAPPY TOOTH PROJECT

(虫歯で亡くなる子どもをなくそうプロジェクト)の開催

○近藤(志賀)千尋¹⁾ 相原英信²⁾ 小泉裕史³⁾ 鈴木淳子⁴⁾ 村田千年⁵⁾

村田祐志⁶⁾ 割田幸恵⁷⁾

- 1) 大泉学園町・近藤歯科
- 2) 医療法人社団英知会・練馬春日町デンタルクリニック
- 3) 小泉歯科医院
- 4) マーレデンタルクリニック
- 5) マリーナ歯科クリニック
- 6) U歯科医院
- 7) 日本歯科大学生命歯学部小児歯科講座

モンゴル国では放置した齲蝕を起因とする菌性感染症が多く、蜂窩織炎を惹起して死亡する小児が多いことから、①口腔衛生指導を行い、②根尖性歯周炎の原因となりうる齲蝕を治療し、③日本人歯科医師からモンゴル人歯科医師への技術移転を三本柱とするプロジェクト、HAPPY TOOTH PROJECT(虫歯で亡くなる子どもをなくそうプロジェクト)を立案した。開催1年前より、モンゴルテレビ9でプロジェクトの告知、間食指導を放映し周知をはかり、ソーシャルワーカーらの協力を得て、低所得者層が多く住むゲル地区の2歳から18歳までの子どもを治療対象とした。3日間の期間中、409名が口腔衛生指導を受け、297名に対し治療を行った。来場した患児の齲蝕罹患率は94.7%で、1歳から年齢増加とともに齲蝕数が増えていったが、治療率の増加は認められなかった。また、歯科医師を招請し、日常臨床のスキルアップの機会となるよう歯内療法の潮流について講演を行った。

Organizing ' HAPPY TOOTH PROJECT' in Ulaan Baatar, Mongolia, to save Mongolian children dying from tooth decay.

○Chihiro Kondo-Shiga¹⁾ Hidenobu Aihara²⁾ Hiroshi Koizumi³⁾ Atsuko Suzuki⁴⁾
Chitose Murata⁵⁾ Yuji Murata⁶⁾ Sachie Warita-Naoi⁷⁾

1) Kondo Dental Clinic

2) Nerima Kasugacho Dental Clinic

3) Koizumi Dental Clinic

4) Mare Dental Clinic

5) Marina Dental Clinic

6) U Dental Clinic

7) Department of Pediatric Dentistry, The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, Tokyo, Japan

As youngster has lost their lives due to cellulitis, caused by dental decay, we organized `HAPPY TOOTH PROJECT` in Ulaan Baatar, Mongolia, on Aug. 1 to 3, 2016, to save children dying from tooth decay. The aim of this project is (1) instructing proper oral hygiene to children and their guardians, (2) emergency measures, (3) sharing latest knowledge between Mongolian and Japanese dentists. 409 children visited and received TBI, 297 were treated. 94. 7% children had decay. Although decay increased with age, the percentage of treatment significantly low in any ages.

8. エチオピア連邦共和国における口唇口蓋裂医療援助活動の検討

○西原一秀^{1,2,3)} 後藤尊広^{2,3)} 岐部俊郎⁴⁾ 古川博雄⁵⁾ 中村典史⁴⁾ 夏目長門⁶⁾
新崎章^{1,2,3)}

- 1) 琉球大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座
- 2) 琉球大学医学部附属病院歯科口腔外科
- 3) 琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター
- 4) 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面外科学分野
- 5) 愛知学院大学心身科学部健康科学科
- 6) 愛知学院大学歯学部口腔先天異常学研究室

われわれは、エチオピア連邦共和国（以下、エチオピア）で 2011 年から 2017 年までに計 6 回の口唇口蓋裂患者の無償医療援助活動を行った。そこで、今回これまでの活動内容や活動準備の経緯などから今後の活動支援などの在り方について検討したので、報告する。

活動は、主にエチオピアの地方都市ブタジラ州 Grarbet 病院で口唇口蓋裂治療ならびに技術指導を行った。手術は 75 名（男性 51 名、女性 24 名）に行い、手術内容は口唇形成術 69 例、口蓋形成術 4 例、口唇修正術 2 例であった。

エチオピアでは医師不足などによって十分な医療システムの確立に至っておらず、十分な移動手段と費用がないために地方では満足な医療が受けられない患者が多い。これまでの活動では手術道具、薬品などの税関処理に多くの時間を必要とし、Grarbet 病院では麻酔器材の老朽化や手術前後の患者管理などに不十分な点が見られ、その整備が今後の課題と思われた。

An Examination for our charitable activity on cleft lip and palate patients in Ethiopia

○K. Nishihara^{1,2,3)} T. Goto^{2,3)} T. Kibe⁴⁾ H. Furukawa⁵⁾ N. Nakamura⁴⁾
N. Nagato⁶⁾ A. Arasaki^{1,2,3)}

- 1) Department of Oral and Maxillofacial Functional Rehabilitation, Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus
- 2) Department of Oral and Maxillofacial Surgery, University of the Ryukyus Hospital
- 3) Cleft Lip and Palate Center, University of the Ryukyus Hospital
- 4) Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences
- 5) Department of Health Sciences, Faculty of Psychological and Physical Science, Aichi-Gakuin University
- 6) Division of Research and Treatment for Oral and Maxillofacial Congenital Anomalies, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University

Our charitable activity for cleft lip and palate (CL/P) patients was launched with support and funding from the Japan Cleft Palate Foundation for 2011 to 2017 in Ethiopia. The aim of this study was to better understand the results of this program and the effects of CL/P treatment in this population for our charitable activities in Ethiopia, and to propose the new cooperation for the future.

Our charitable members have visited Garbet Hospital at Butajira where took about 3 hours south from the capital Addis Ababa. Seventy-five patients (male; 51, female; 24) underwent surgery to correct their CL/P. Senior surgeons performed 69 cheiloplasty, 4 palatoplasty, and 2 lip reconstructions.

There are many patients that cannot undergo an appropriate treatment behind the doctor shortage and the insufficient development of economic and infrastructure at the local areas in Ethiopia. We believe that a program that requires our continuing surgical and economic cooperation is needed for making progress in the multidisciplinary treatment of CL/P.

9. フィリピンでの歯科材料工場、歯科技工所操業報告

○島隆寛^{1,2)}

- 1) 株式会社シケン
- 2) 株式会社クエスト

【背景】歯科技工所である株式会社シケンは1996年にフィリピンのセブにて歯科材料工場を操業していた株式会社山一歯研を1998年に買収しました。この時点から海外展開をスタートさせました。現在はこの会社は株式会社クエストと社名変更をして活動しております。セブ工場ではメインの製品としてパラフィンワックス、人工歯などを製造しております。2009年には（株）シケンの祖業であります歯科技工所部門をセブ工場の中に設立しました。そして現地の歯科医院様を相手に取引をさせていただいております。また2016年からはマニラにも歯科技工所を設立致しました。

【活動報告】セブには380人、マニラには15人ほどのスタッフが在籍しております。フィリピンでは歯科技工士制度が2年前より確立されており、歯科技工所を運営するためには最低一人の資格者が必要となっております。フィリピンの方は目が良い方が多く、人工歯に少しでも色の濁りなどがあれば検品で不良品として廃棄しております。歯科技工士としても手先の器用な人が多くおります。またほとんどの方が英語を話すことが出来るのも大きな特徴です。

【考察】フィリピンは経済発展著しい将来が期待できる国ですが、一方で貧富の差は大きく交通渋滞などもひどい状態です。その中で我々、日本の歯科関係者が出来ることを実践していき、現地の歯科医療の向上に寄与しております。

Dental material factory and dental laboratory operation report in Philippine

○Takahiro Shima^{1,2)}

1) Shiken Co., Ltd.

2) Quest Co., Ltd.

【Summary】 In 1998, Shiken Corporation., a dental laboratory, bought Yamaichi Shiken Co., Ltd which had been operating a dental material factory in Cebu, the Philippines since 1996. We started overseas deployment from this point. The company changed its name to Quest Corporation and has continued the operation.

We manufacture paraffin wax, artificial teeth etc. as the main products at the factory in Cebu. We established the dental laboratory department in the Cebu factory in 2009 and have been doing business with local dental clinics. Dental laboratory business is the core business of Shiken Corp. in Japan. We also established a dental laboratory in Manila in 2016.

【Activity report】 The Cebu factory has 380 employees and there are about 15 staffs at our dental lab in Manila. The legal system for certified dental technicians was established in the Philippines two years ago and at least one qualified technician is required to operate a dental lab. In general most of the Filipinos have good eye-sight and it allows them to find out even insignificant muddiness in artificial teeth at inspection and they are disposed as defectives. They also have the big advantage of speaking in English.

【Consideration】 The Philippines is a country where economic development is remarkable and can be expected in the future, but on the other hand the gap between rich and poor is great and traffic congestion is also bad. Under these circumstances, we practice what Japanese dental related people can do and contribute to improving local dental care.

10. ラオスにおける歯科技工士養成プログラム開設について

- 佐藤貴映^{1,2,3,4,5)} 持田寿光¹⁾ 佐藤緑^{1,2)} 渡辺一騎¹⁾ 谷野弦¹⁾ 高山史年¹⁾
小峰一雄¹⁾ 宮田隆¹⁾
- 1) 歯科医学教育国際支援機構
 - 2) ひかり歯科クリニック
 - 3) 滋慶学園歯科衛生士学科（非常勤講師）
 - 4) 明海大学歯学部病態診断治療学講座薬理学分野
 - 5) ヘルスサイエンス大学ラオス P. D. R 歯学部（客員教授）

【緒言】歯科医学教育支援機構（OISDE）は外務省無償支援事業に採択されラオス人民民主共和国にて活動中である。活動の1つは地方部における看護師・看護学生に対する歯科・口腔保健教育であり、2つ目の活動は、地方のヘルスセンターにおける検診活動のサポートである。そして、アジア諸国の多くの国ではデンタルテクニシャン（歯科技工士）制度が確立しているが、ラオス人民民主共和国には同制度はない。そこで、3つ目の活動として、ヘルスサイエンス大学（以下UHS）歯学部をカウンターパートナーとし、歯科技工士養成プログラムを開設することになった。2016年9月に歯科技工士養成プログラムが開設し、UHS 歯学部補綴科の担当教員に技術移転するとともに、初年度入学の学生に対し、歯科技工の知識や技能の講義、実習を行い、ラオス人民民主共和国における歯科技工士制度を確立し、ラオス国民の歯科・口腔疾患保健活動の向上につなげている。

【活動内容】2016年9月の歯科技工士養成プログラム開始までに、UHS 歯学部と歯科技工士養成のために多数回の協議、会議を行い、カリキュラムや、必要資器材を選定した。開設後は、UHS 歯学部補綴科の担当教員と共にカリキュラムや必要資器材のブラッシュアップを行いながら、学生に対し歯牙解剖の講義、実習を行っている。

【結論】歯科技工士養成プログラム開設にあたり、UHS 歯学部補綴科の担当教員に歯科技工の知識や技能の技術移転を行うことにより、来年度入学の学生に対し、歯科技工の講義、実習を行える人材の育成のためのシステムを構築しつつある。今後は、ラオス人民民主共和国における技工士が誕生することにより、上質な歯科・口腔疾患保健活動を提供できる環境を整えたい。

Starting a Dental technician program, Lao PDR.

○Takao Satoh^{1,2,3,4,5)} Toshimitsu Mochida¹⁾ Midori Satoh^{1,2)} Ikki Watanabe¹⁾

Gen Yano¹⁾ Fumitoshi Takayama¹⁾ Kazuo Komine¹⁾ Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

2) Hikari Dental Clinic, wakou city, Japan

3) Jikeigakuen dental hygienist department part-time teacher

4) Department of Pharmacology, Meikai University Dentistry

5) Visiting Professor, the University of Health Sciences, Lao P. D. R

【INTRODUCTION】 OISDE is adopted by Ministry of Foreign Affairs free support project and is active in the Lao P. D. R. A dental technician system is established in many countries of Asian countries, but the Lao P. D. R. does not have the system and does University of Health Science (following UHS) school of dentistry with a counter partner as the third activity there and will establish a dental technician training program. A dental technician training program is established in September, 2016. We establish a dental technician system in the Lao P. D. R. and can connect to the improvement of dentistry, the disease of oral cavity health practice of the Laotian nation.

【ACTIVITIES】 We held the meeting of many several times for UHS and the dental technician training by a dental technician training program start of September, 2016, and we chose a curriculum and necessary material. We perform a lecture, training of the dental dissection for a student while brushing up a curriculum and the necessary material after dental technician training program establishment with UHS.

【CONCLUSIONS】 We are building a system for personnel training by transferring technology of knowledge and the skill of dental laboratory techniques on dental technician training program establishment in UHS.

We want to fix the environment that can provide good-quality dentistry, disease of oral cavity health practice in future by a dental technician being born in Lao P. D. R.

Ⅲ-1

11. ネパールでの地域保健活動 ～30年目を前に～

○根木規予子¹⁾ 白田千代子¹⁾ 深井稔博¹⁾ 中村修一¹⁾

1) ネパール歯科医療協力会

ネパール歯科医療協力会は1989年より、これまでに30回の現地活動を行ってきた。初期は歯科診療と調査が中心であった。その後、地域保健活動にシフト、自立支援の一活動として、現地口腔保健専門家養成事業を行ってきた。この事業を通して養成された口腔保健専門家は、学校や地域、暮らしの中で一次予防のための健康教育活動を行っている。2015年に現地NGO（Well-being Nepal）を設立、ネパール人歯科医師が中心となり現地で運営、管理していく段階へと進んできた。しかし、同年ネパール大地震が発生、活動拠点地域においても、住宅、学校など建物への影響、道路などインフラ設備への影響が出た。保健行動への影響も懸念される中、今後、現地の人々が自らの力で自らの健康を守れるようにサポートし、それらを持続させてくために何が必要か、今後の活動の展望、課題について考察する。

Community health activities in Nepal

○Kiyoko Negi¹⁾ Chiyoko Hakuta¹⁾ Fukai Kakuhiro¹⁾ Shuichi Nakamura¹⁾

1) Association of Dental Cooperation in Nepal

ACDN (Association of Dental Cooperation in Nepal) has carried out local activities 30 times so far since 1989. Initially dental examinations and surveys were focused on. After that, we shifted to community health activities and trained local oral health experts to support independence. Oral health experts trained in this project are doing health education for primary prevention in school, community. We established a local NGO (Well-being Nepal) in 2015, and Nepalese dentists have been managing the NGO locally. However, as the Nepal earthquake occurred in 2015, infrastructure such as houses, schools, and roads was damaged in the area of the activity base. There is also concern that health activities will be affected by the earthquake. What is necessary to make local people able to maintain their own health, and the prospects and issues of future activities are discussed.

Ⅲ-2

12. モンゴルにおける障がい者歯科の取り組み

○黒田耕平¹⁾

1) 日本モンゴル文化経済交流協会

モンゴルとの歯科医療協力は1991年から続けている。当初、社会主義から資本主義への政治・経済の大きな変化に伴い、歯科界も大きな混乱があった。一方、国民生活の大きな変動から歯科疾患の増加、特に小児のう蝕は今も急増している。一般の歯科治療はもちろん小児歯科治療やう蝕予防面での遅れもあって、対策が急がれる。そんな中で、モンゴルの障がい者歯科はほとんど取り組まれていなかった。我々は、2002年からウランバートル市内にある Shar khad 病院の障がい者施設で、現地のエネレル歯科診療所スタッフと国立医科大学歯学部生達と共に、訪問診療と予防活動を行っている。また、2016年からは「在宅障がい児親の会」を対象に、虫歯予防教室や歯磨き指導、歯科治療を始めている。この活動は、エネレル歯科と国立大学小児・予防歯科と共に、大学病院で診療・予防等を行っている。現地に行った時の活動だけでなく、現地に障がい者歯科の定着を目指して活動して行きたい。

Efforts of disability and oral health in Mongolia

○KOHEI KURODA¹⁾

1) Japan Mongolia Cultural and Economic Exchange Association

Dental care cooperation with Mongolia continued since 1991. Initially, accompanied by major changes in politics and economy from socialism to capitalism, the dental industry also had great disarray. Meanwhile, the dental diseases increase, especially the caries of children, is rapidly increasing from the large fluctuation in the lives of the people. There are delays also general dental treatment as well as pediatric dental treatment and dental caries prevention, measures are urgent. Under such circumstances, disability and oral health in Mongolia were hardly addressed. Since 2002, we have a disabled facility in Shar khad hospital in Ulaanbaatar city, together with Enerel Dent staff and National Medical University dental students, we conduct visit dental treatment and preventive activities. Also, since 2016, we have started dental caries prevention classroom, toothbrush teaching, and dental treatment for "Home-disabled children". This activity, along with Enerel Dent and national university pediatric and preventive dentistry, is conducting dental treatment and prevention at university hospital. We would like to act not only the activity when going to the site, we would like to act with the aim of establishing a disability and oral health in Mongolia.

Ⅲ-3

13. 「NPO 法人歯科ネットワーク ー岡山から世界へー」の取り組み

○龍康殿あづさ¹⁾ 村木利彦¹⁾

1) NPO 法人歯科ネットワークー岡山から世界へー

NPO 法人「歯科ネットワーク岡山から世界へ」（通称デンティスト・ノウ）は、2010年に設立された海外での予防歯科啓発活動を行う、岡山を中心とした歯科ネットワークです。経済的理由や社会的理由から、不安定な生活を余儀なくされた子どもたちの成長・自立のための支援を、現地団体との「協働」で行っています。設立時よりベトナムにて活動を開始、その後2013年よりフィリピンでも活動を開始して現在に至ります。我々の活動の特徴は「予防」に力を入れているところです。短期間での治療の繰り返しとなりがちな海外歯科ボランティアですが、予防概念が子供たちや取り巻く大人たちに根付くことを目的として、当会の理念である「相互扶助」の精神のもと地道な活動を続けています。この度、活動紹介の機会をいただき、発表させていただくことになりました。宜しくお願い致します。

The efforts of Dentist Network from Okayama to the World (Specified Nonprofit Corporation)

○Azusa Ryukoden¹⁾ Toshihiko Muraki²⁾

1) PR manager

2) Chief Director / Muraki Dental Clinic

Our Dentist Network from Okayama to the World, Dentist-NOW is network consisted of dentists and other oral-health professionals mainly from Okayama. We started to act as a Specified Nonprofit Corporation to give awareness of preventive dentistry in 2010. We have been supporting self-reliance and development of children, who are forced to live unstable life because of economic or social reasons. We are supporting children in cooperation with their supervisors of care house or school for early education on site. We have been working in Vietnam since 2010, also in Philippines since 2013.

Our activity' s feature is making a strong effort to tell how to prevent dental caries. Though we tend to repeat treatment in short interval when we do volunteer work in developing countries, we' re keeping on giving conceptual message to children and adults surrounding, under the spirits of help one another, "it' s important to have awareness of preventive dentistry."

We' re happy to get a chance to introduce our efforts and would appreciate if you get to have empathy for us.

Ⅲ-4

14. JICA 青年海外協力隊保健・医療隊員の活動

○原田祥二¹⁾ 池田美子²⁾ 三重野雅³⁾ 板垣晶博¹⁾ 川染なおみ⁴⁾ 多田玲子⁴⁾
木原由里子⁴⁾ 原田晴子⁴⁾ 吉川春佳⁵⁾ 相坂慎吾⁴⁾ 小林里美⁴⁾ 福島紘平⁴⁾
田中綾⁴⁾ 阿部幸太郎⁴⁾ 山口猛彦⁴⁾

- 1) 原田歯科
- 2) 池田歯科クリニック
- 3) しろくま歯科
- 4) 青年海外協力隊北海道 OB 会
- 5) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター中央検査部

今回われわれは、青年海外協力隊の、歯科医師 3 名、歯科衛生士 1 名、助産師 1 名、看護師 1 名、臨床検査技師 1 名、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名、薬剤師 1 名の 8 職種 12 名が 9 か国で行った保健・医療隊員の活動の概略を紹介する。

保健医療に分類される職種ではあるが、それぞれ途上国、地域の実情に合わせた活動を行っていることが伺えた。

The activity of Japan Overseas Cooperation Volunteers for the health promotion

We introduce an outline of the activity of the member of Japan Overseas Cooperation Volunteers, where three dentists, one dental hygienist, one obstetrical teacher, one nurse, one medical technologist, two physical therapists, two occupational therapists and one pharmacist, 8 types of job 12 in nine countries.

It was the type of job classified in health medical care, but it was able to call to perform activity to a developing country, the local fact each.

15. ラオスにおける看護師を介した歯科口腔保健サービスの構築と全国展開

○渡辺一騎^{1,2)} 持田寿光¹⁾ 谷野弦¹⁾ 高山史年¹⁾ 小峰一雄¹⁾ 宮田隆¹⁾

- 1) 歯科医学教育国際支援機構
- 2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野

【緒言】歯科医学教育支援機構は2012年より、ラオス人民民主共和国にてデンタルナースの教育システムを確立すべく活動中である。ラオスにはデンタルナースの制度が無いため喫緊の措置として、全国の市町村に点在するヘルスセンターの看護師に技術移転を行い地域住民の歯科口腔保健を管理できる体制を目指した。

【活動内容】まずモデル事業を行う地域をビエンチャン県ポンホン地区に設定した。第1フェーズでは、県の看護学校（現在は公衆衛生学校に改編されている）に歯科口腔保健のカリキュラムを導入し、デンタルナースの代替となりうる人材が恒久的に輩出される体制を構築した。第2フェーズでは、当該地区への歯科口腔保健サービスシステムの導入実験を行った。すなわち、地区の各ヘルスセンターを巡回し、地域住民に対する健診やスクレーリングを含む簡単な歯科治療を通して看護師および看護学生に技術移転を行った。現在第3フェーズでは、ポンホン地区での実績を踏まえ、看護学校を有する他県への事業展開を行っている。

【結論】モデル地区の看護学校に歯科口腔保健のカリキュラムを導入し、またすでに配置されている看護師に対してはワークショップならびに実地指導を行い、看護師がデンタルナースの役割を兼務するシステムを構築した。今後は全国展開をさらに進めて行く。なお、本活動は外務省無償支援事業に採択されている。

Capacity building project and its nationwide coverage planning of nurses through dental and oral health training in Lao PDR.

○Ikki Watanabe^{1,2)} Toshimitsu Mochida¹⁾ Gen Yano¹⁾ Fumitoshi Takayama¹⁾
Kazuo Komine¹⁾ Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

2) Dept. of Gerodontology and Oral Rehabilitation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

【INTRODUCTION】 OISDE has developed activities to build a dental nurse training system in Lao PDR since 2012. Due to lack of dental nurse system we have transferred basic knowledge and skills of oral health to medical nurses who work at health centers in province and have established a system to provide oral health services to local villagers.

【ACTIVITIES】 We have settled a model project of nurse training system at Phong Hong District, Vientiane Prefecture. In the 1st phase of the project, we designed a dental and oral health programs into the curriculum of a local Technical Nursing School (TNS), and established a basic system to provide human resources, instead of dental nurses, which promote oral health services to local villagers. In the 2nd phase, experimental introductions of oral health services were made at the local health centers. We transferred basic knowledge and skills of oral health such as oral surveys, scaling and minor dental treatments to nurses and TNS students at each health center. In the 3rd phase, based on the success of the model project at Phong Hong District, same training systems and introductive oral health services are developed at other prefectures which have a Public Health School (former TNS).

【CONCLUSIONS】 A model project of nurse training system was developed both at TNS and local health centers to establish a system to provide oral health services to local villagers by medical nurses instead of dental nurses. We will develop same projects at other prefectures throughout Lao PDR.

16. カンボジアにおける孤児のう蝕罹患状況とその関連要因

○久保田悠¹⁾ Sutthi Jareonpituak²⁾ Kulaya Narksawat²⁾

Pratana Satitvipawee³⁾ Callum Durward⁴⁾

1) 新潟大学医歯学総合病院予防歯科

2) Mahidol University, Department of Epidemiology, Thailand

3) Mahidol University, Department of Biostatistics, Thailand

4) University of Puthisastra, Faculty of Health Sciences, Cambodia

【目的】本研究は、NGO が運営する歯科診療所に来院するカンボジア孤児のう蝕罹患状況とその関連要因を検討することを目的とした。

【対象・方法】対象者は、NGO が運営するプノンペンの歯科診療所に来院する12歳から18歳までのカンボジア孤児187名である（男子：103名、女子：84名、平均年齢：13.28 ± 1.51歳）。う蝕罹患状況はDMFTスコアを用いて、生活習慣は質問紙を用いたインタビューにて調査した。データ集計後、う蝕罹患状況と生活習慣の関連について統計的分析を行い、有意水準を5%とした。

【結果】対象者のう蝕有病者率は85.2%であり、30%が重度う蝕群に分類された。また、DMFT、DT、MT、FTスコアはそれぞれ3.58 ± 3.00、2.13 ± 2.54、0.13 ± 0.44、1.32 ± 1.68であり、年齢が高く、甘味食品を高頻度摂取するものほどDMFTスコアが有意に高かった（ $p < 0.05$ ）。

【結論】本研究の結果から、対象者のう蝕罹患は高い傾向にあり、生活習慣の改善を含めたう蝕予防に取り組む必要があることが示唆された。

Dental Caries Status and Associated Factors among Orphaned Children in Cambodia

○Yu Kubota¹⁾ Sutthi Jareonpituak²⁾ Kulaya Narksawat²⁾

Pratana Satitvipawee³⁾ Callum Durward⁴⁾

1) Preventive Dentistry Clinic, Niigata University Medical and Dental Hospital

2) Mahidol University, Department of Epidemiology, Thailand

3) Mahidol University, Department of Biostatistics, Thailand

4) University of Puthisastra, Faculty of Health Sciences, Cambodia

【Purpose】 The purpose of this cross-sectional study is to examine the prevalence of dental caries and associated factors among children aged 12–18 years residing at orphanages in Phnom Penh, Cambodia.

【Materials and methods】 The study included 187 subjects (male = 103, female = 84, mean age = 13.28 ± 1.51 years), and the data was collected by means of oral examinations, DMFT scoring, oral health questionnaires including sociodemographic and oral health behavior, and interviews conducted in a private dental clinic supported by a non-government organization.

【Results】 The overall caries prevalence was found to 85.2%, and 30% of the children exhibited severe caries. The mean DMFT, DT, MT and FT scores were 3.58 ± 3.00 , 2.13 ± 2.54 , 0.13 ± 0.44 and 1.32 ± 1.68 , respectively. Significant differences in factors related dental caries were found among different age groups and sweet intake groups ($p < 0.05$).

【Conclusion】 The results of this study suggest that targeted oral health promotion programs are necessary to prevent dental caries in this population.

IV-2

17. 歯科医療従事者にできる新たな国際保健活動への貢献のかたち（パート2）

○高山史年¹⁾ 谷野弦¹⁾ 持田寿英¹⁾ 渡辺一騎¹⁾ 佐藤貴映¹⁾ 宮田隆¹⁾

1) 歯科医学教育国際支援機構

【緒言】歯科系国際 NGO にとって公的資金調達は困難を極め、各々の団体は会員からの会費や寄付、会員自身の自己資金にて活動費を捻出している。特活) 歯科医学教育支援機構（以下 OISDE）では 2005 年より金属回収事業を展開し、国際保健活動に役立ててきていることを前回、理事の谷野が発表している。今回、金属回収事業をさらに展開するために研修会を開催して積極的に資金を調達できたので報告する。

【目的】前回の報告では、過去 9 年間に我々が経験してきた金属回収事業の概要とそれらによる活動成果を報告した。そして今回「かかりつけ歯科医機能強化診療所」の届出の算定用件の研修会を開催した。

【活動内容】金属回収事業では、患者さんが不要とした除去冠や旧義歯を協力歯科医院単位で回収し換金、国際支保健活動に役立ててきている。ところで政府は 2025 年の高齢者社会に向け「かかりつけ歯科医機能強化診療所」の強化を目指しているが施設基準の研修会開催の数は少ない。そこで OISDE はこの施設基準を満たす研修会を今回開催した。参加費は撤去冠とし 315 g 集まった。

A new method of contributing to dentistry for international dental health care workers (Part 2)

○Fumitoshi Takayama¹⁾ Gen Yano¹⁾ Toshihide Mochida¹⁾ Ikki Watanabe¹⁾
Takao Sato¹⁾ Takashi Miyata¹⁾

1) Organization of International Support for Dental Education: OISDE

【Introduction】 Dr. Yano previously announced, obtaining public funds for dentistry international NGO is difficult in Japan. Activity funds are made up of donations and dues from members of each organization and organizations self-funds. The Organization of international support for dental education (OISDE) has started the precious metal recovery activities which has funded the improvement of international oral dental health care since 2005.

This time, we held a workshop to further develop the metal recovery business, and we were able to raise funds.

【Objective】 The result of collecting metal over the past 9 years was outlined in the previous report. In this current report, we outline the workshop where we made notifications of the calculations for the “Kakarituke Sikaikinou kyouka Sinryoujyo”.

【Activities】 The precious metal recovery activity has been supporting international health activities with funding by recovering old dentures and removed crowns from patient in dental office, the government aims to strengthen “Kakarituke Sikaikinou kyouka Sinryoujyo” for the 2025 senior citizen society, though the number of facility standard workshops held is small.

Therefore, OISDE held a workshop meeting this facility standard this time. 315 g of removed crowns were used as the participation fee.

18. 経営者の視点で考える歯科国際協力の management

○村田千年^{1,2)} 堀江康夫^{1,3)} 小松崎悟郎^{1,4)} 近藤（志賀）千尋⁵⁾

- 1) NPO 法人 YOU&ME ファミリー
- 2) マリーナ歯科クリニック
- 3) 聖路加国際病院歯科口腔外科
- 4) しらかばデンタルクリニック
- 5) 大泉学園町・近藤歯科

国際協力に携わる歯科医師には、平素は自己のクリニックを経営・運営しその余暇を国際協力活動に充てる開業医ドクターも少なくない。開業医というのは歯科医師であると同時にプロの経営者でもある。経営者であるということは勤務医時代とは異なり、自己の技量練磨に専念するばかりではなく医院運営のための様々な中・長期的な思考・判断、いわゆる「management」を日々求められている。それらの思考・判断のなかには設備投資、資金繰り、人材獲得、スタッフ教育、広告宣伝、医療事故対策などが含有され、こうした課題は国際協力活動にも類似性を見出すことができる。

これらの共通する経営課題を以下の3点に分類した。

- ① Financial management
- ② Promotional management
- ③ Risk management

経営者の視点から、これらの management について国際協力との類似性から論じてみたい。

Management of international dental co-operation from a point of clinical manager`s view

○Chitose MURATA^{1,2)} Yasuo HORIE^{1,3)} Goro KOMATSUZAKI^{1,4)} Chihiro KONDO-SHIGA⁵⁾

- 1) NPO YOU & ME Family
- 2) Marina dental clinic
- 3) St. Luke`s International Hospital Dept. of Oral & Maxillofacial Surgery
- 4) Shirakaba dental clinic
- 5) Kondo dental clinic

Some dentists who concern to the international co-operation own their clinics as general practitioners. The doctors in private practice are not only dentists but also professional managers. That means prospective visions and decisions are required to their clinical management, which includes investment, financial plan, staff educations, advertising, risk controls. This is also applied to the issues of international co-operation.

Those common issues are categorized as below.

- ① Financial management
- ② Promotional management
- ③ Risk management

We would like to discuss about them from a point of clinical manager`s view.

IV-4

19. ドラえもんとかぐや姫

○田中健一¹⁾

1) 北京天衛診療所

「あんなこといいな、できたらいいな」で始まるドラえもん。小学生のノビ太が困ったらすぐ助けてくれるドラえもんはありがたい存在でした。しかし、中学・高校となってもノビ太はドラえもんへ依存し続けます。就職活動でノビ太の問題解決能力の欠落が露見し、どこの企業もノビ太を採用しません。ドラえもんも頼られる居心地の良さから居候を続けます。そんなおり、親の会社はトランプ政権の影響を受け倒産、野比家の収入の道は断たれたのです。

かぐや姫は竹の中で生まれおじいさん・おばあさんに育てられ、多くの求婚者の誘いにも乗らず、星のかなたへと飛び立ちます。かぐや姫は自分第一のわがまま娘にもみえますが、自分が地上には居場所のないことを知っていた女性だったのです。

神田川を知らない若い世代と、神田川を知るベテラン世代には国際医療貢献に対する意識において、ドラえもんとかぐや姫ほどの大きな断絶があり、バトンタッチは可能なのでしょうか？

International cooperation under the neoliberalism

OK. Tanaka¹⁾

1) Bei-Jing clinic

The purpose of international cooperation for old generations was to achieve the Solidarity society beyond the border of nations. However, long term assistance led Exhaustion to donor countries. And some type of assistance inhibits recipient's independence. As to the retreat of liberalism, neoliberalism have gaining popularity for young generation. Self-freedom and self-responsibility is both wheels under the society with neoliberalism. With the progress of globalism, disconnection with old and young, advanced and developed expand rapidly. I hope to discuss which kind of assistance should be carried out under the budget constraint situation.

IV-5

20. 若手のキャリアパスと国際歯科保健

○相田潤¹⁾

1) 東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野

若手の歯科医師、歯科衛生士や、それらの職種を目指す学生にとって、将来のキャリア形成は重要な課題であろう。キャリアを選択する際には、成功のしやすさといった軸と、自分がやりたいことかといった軸が存在する。また、キャリアのロールモデルとなる先輩方をどれだけ知っているかといったソーシャルネットワークも重要な役割を果たす。そして、国際歯科保健の観点をキャリアに織り込んでいくことは、キャリア形成に1つの難しさを加えるようにも思うし、目的を明確にしてキャリア形成を容易にするようにも思われる。本演題ではこうしたキャリア形成について、科学的な視点も取り入れつつ考察し、若手の議論の材料の1つになることを目指したい。

Young career path and international dental health

○Jun Aida¹⁾

1) Department of International and Community Oral Health,
Tohoku University Graduate School of Dentistry

For young dentists, dental hygienists and students aiming at their profession, future career development will be an important issue. When choosing a career, social network also plays an important role to obtain role models. Incorporating the perspective of international dental health as a career has difficulty and merits. In this presentation, I would like to consider such career development to encourage discussion among younger generation.

第 28 回 JAICOH 総会および学術集会 プログラム集・抄録集

発行日：2017 年 7 月 1 日

発行：第 28 回 JAICOH 総会および学術集会 準備委員会

大会長： 宮田 隆

準備委員長：谷野 弦

準備委員： 高山史年 竹内麗理 遠藤眞美 谷口健太郎

斎藤孝平 浅野一磨

